

## 村松久史・光田 寧両教授の御退官によせて

村松久史先生、光田寧先生には、平成9年3月31日をもって京都大学を停年退官され、京都大学名誉教授となられました。両先生には防災研究所における研究と発展に多大のご尽力をいただき、そのご功勞に対しまして心から感謝の意を表したいと思います。

村松久史先生は、長野県立飯田高松高校を卒業されたのち、京都大学理学部地球物理学科へ入学され、昭和32年に同学科を卒業されました。昭和32年4月に運輸技官行政職に採用され、気象庁高層気象台に配属されましたのち、昭和35年7月には研究職に変わられ、昭和36年4月に研究官に昇任されました。昭和52年6月に気象研究所研究官に転任され、昭和46年4月に主任研究官、昭和51年3月に研究室長、昭和60年4月に研究部長へと昇任されたのち、昭和62年4月に京都大学防災研究所教授に転任され、平成9年3月に停年退官されました。京都大学防災研究所では、昭和62年4月から災害気候研究部門の主任を勤められ、平成8年4月からは大気災害研究部門長をされました。この間、大気組成物質の気象・気候へ与える影響に関する研究、局地の気象・気候の研究、熱帯・極地を含む大気の循環と気候変化の研究などを推進されてきました。

村松久史先生は、学術研究および教育の各分野におきまして多くの業績を挙げられるとともに、大学の管理運営面におきましても多大の貢献を果たされてきましたが、主なご功績を示しますと、次の通りです。

研究面におきましては、大気オゾンの分布・変動に関する観測・理論的研究、温室効果気体の観測および理論的研究を主とする多くの研究を行われました。これらの研究においては、オゾンの高度分布測定のためのオゾンゾンデの開発・改良・測定および理論的研究によりオゾンの高度分布とその変動を明らかにされました。大気オゾンの地球規模での循環に関しましては、成層圏と対流圏の間の輸送、対流圏から地表への輸送過程を明らかにされました。また、大気オゾン濃度に影響を与える物質として、フロン、メタン、亜酸化窒素、水蒸気等の分布の観測およびそれらの物質のオゾン層への影響を明らかにされました。一方、これらの物質の赤外放射とその温室効果に与える影響を明らかにされるなど多くの成果を挙げられました。

一方、教育面におきましては、大学院理学研究科の指導教授として多くの大学院生の教育と研究指導を行われ、学部学生の教育にも努力されました。

また、日本気象学会、日本大気電気学会、日本分光学会などの会員として活発に学会活動を行われ、昭和63年から2期4年間にわたり日本気象学会関西支部長を務められ、気象の研究・普及の推進に尽力されました。さらに、国立極地研究所の専門委員として南極での大気組成の観測・研究を推進されるとともに、通商産業省の化学品審議会委員、環境庁の成層圏オゾン層保護に関する検討会委員としてオゾン層の保護、研究の推進に貢献されてきました。また、気象庁気象研究所の評議委員会委員として同研究所の運営に貢献されました。

光田寧先生は、奈良県立奈良高校を卒業されたのち、京都大学理学部地球物理学科へ入学され、昭和31年に同学科を卒業されました。その後、京都大学大学院理学研究科修士課程、さらに博士課程へと進学されましたが、昭和35年3月に同課程を中途退学され、同年4月京都大学理学部助手に採用されました。昭和36年8月には防災研究所助手に配置換となり、昭和39年4月に防災研究所助教授に昇任されました。さらに昭和52年5月に防災研究所教授に昇任され、平成9年3月に停年退官されるまで、暴風雨災害研究部門の主任として暴風雨災害の研究を推進されてきました。

光田寧先生は、学術研究および教育の各分野におきまして多くの業績を挙げられますとともに、大学の管理運営面におきましても多大の貢献を果たされてきましたが、主なご功績を示しますと、次の通りです。

研究面におきましては、強風の乱流特性および局地性に関する観測研究、海面、裸地、砂漠などの各種地表面上の接地境界層内の乱流輸送現象に関する観測研究、台風の構造および風速分布に関する研究、竜巻や陣風など瞬発性異常気象に関する研究など、きわめて広範囲にわたる研究を行われ、多くの学術的成果を挙げてこられました。この間、観測に利用するための超音波風速温度計および音響探査装置（ソーダー）の開発を行われ、世界の基準となる計測器を完成されています。さらに気団変質観測計画（AMTEX）および黒河流域における地空相互作用に関する研究計画（HEIFE）などの国際共同研究計画におきましても、推進者・世話役として重要な役割を果たされました。

一方、教育面におきましては、大学院理学研究科の指導教授として多くの大学院生の教育と研究指導を行われ、後継者の育成に努力されますとともに、工学研究科の授業担当として長年にわたり学生の指導に当たられました。

また、日本気象学会、風工学会、環境科学会、米国気象学会、米国地球物理学連合会などの会員として活発に学会活動を行われ、日本気象学会および風工学会では理事として両学会の発展に尽くされました。さらに、昭和55年には科学技術会議専門委員、平成8年には同会議委員を務められるなど、科学行政の分野にも貢献されています。

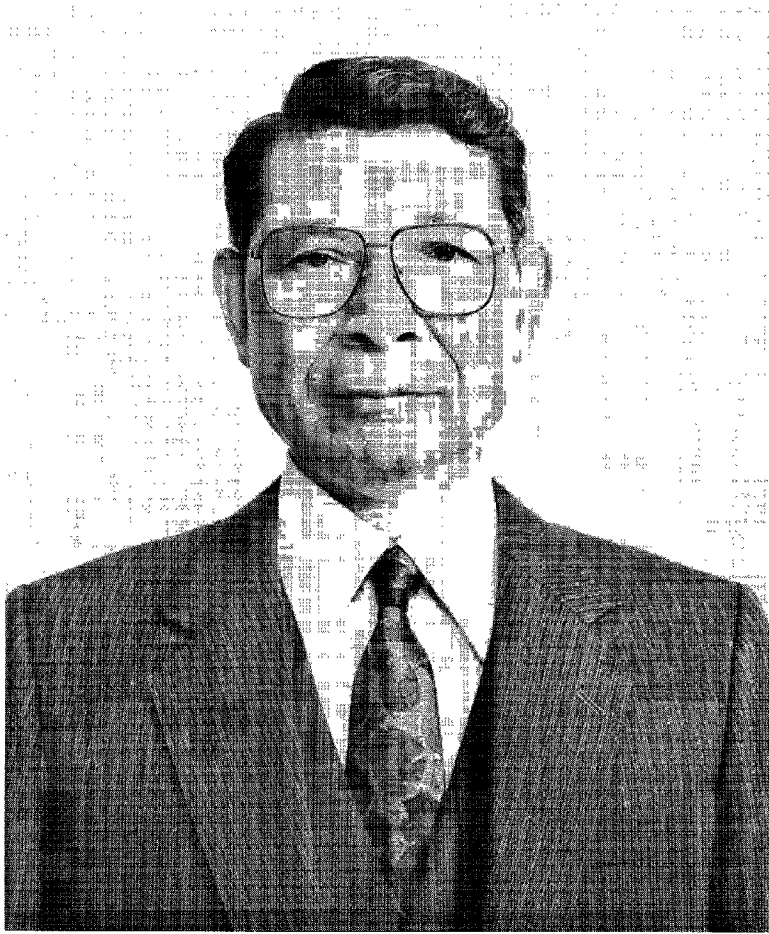
光田寧先生は、昭和46年には日本気象学会賞、平成8年には日本気象学会藤原賞を受賞されるなど、先生の研究は学会でも高く評価されています。

以上のように、村松久史先生および光田寧先生はいずれも学術研究ならびに教育の各分野におきまして多くの業績を挙げられ、大学の管理運営面におきましても多大の貢献を果たしてこられました。現在、防災研究所は、平成8年度の5大研究部門・5センターへの改組ならびに全国共同利用研究所への移行、平成9年度のCOE認定といった改革の最中にあります。このような重要な時期に、深い学識と豊かな経験をお持ちの両先生が停年退官されますことは防災研究所にとりましても誠に寂しい限りではありますが、今後とも防災研究所の発展のために大所・高所からのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、村松久史先生、光田寧先生のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、新たな環境でのご活躍をご期待申し上げます。なお、光田寧先生の奥様が難病と闘われる先生を支えられたご献身はわれわれ所員一同にも深い感動を与えるものであったことを一言付け加えさせていただきます。

平成9年5月

京都大学防災研究所所長  
今 本 博 健



村松久史教授



## 村松久史教授略歴

(学歴・職歴)

昭和8年8月10日 長野県下伊那郡阿南町に生まれる  
27年3月 長野県立飯田高松高等学校卒業  
28年4月 京都大学理学部地球物理学科入学  
32年3月 京都大学理学部地球物理学科卒業  
32年4月 運輸省気象庁に奉職(技官)  
36年4月 高層気象台観測第3課研究官  
42年6月 気象研究所高層物理研究部第1研究室研究官に転任  
46年4月 気象研究所高層物理研究部第1研究室主任研究官  
51年3月 気象研究所高層物理研究部第1研究室長  
京都大学理学博士  
52年6月 運輸省永年勤続20年大臣表彰  
60年4月 気象研究所高層物理研究部長  
62年4月 京都大学防災研究所教授  
京都大学大学院理学研究科担当  
平成9年3月 京都大学停年退官  
9年4月 京都大学名誉教授

(学会等)

昭和63年5月 日本気象学会関西支部長(平成3年5月まで)

(審議会・委員会)

昭和60年9月 国立極地研究所「専門委員会」委員(平成7年9月まで)  
62年2月 環境庁「成層圏オゾン層保護に関する検討会」委員(現在まで)  
62年10月 通商産業省「化学品審議会」委員(現在まで)  
63年11月 気象庁「ドブソン分光光度計等によるオゾン観測データ特性検討調査委員会」委員(昭和64年3月まで)  
平成3年11月 科学技術庁「科学技術会議」専門委員(平成4年3月まで)  
3年9月 日本気象協会オゾン層保護対策調査委員(平成6年3月まで)  
7年7月 科学技術庁「成層圏変動とその気候に及ぼす影響に関する国際共同研究」研究推進委員(平成9年3月まで)  
7年10月 日本気象協会「成層圏変動とその気候に及ぼす影響に関する国際共同研究」委員会委員(平成9年3月まで)  
8年2月 気象研究所評議会委員(平成9年3月まで)

村 松 久 史 研 究 業 績  
論 文

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
	<b>A) オゾン層の観測</b>		
1961	反転観測によるオゾン鉛直分布	研究時報, 第13巻, pp.171-178	
1963	オゾンの鉛直分布	研究時報, 第14巻, pp.788-801	
1964	化学発光物質を用いたオゾンゾンデの試作 (第1報)	研究時報, 第16巻, pp.645-650	
1965	化学発光物質を用いたオゾンゾンデの試作 (第2報)	研究時報, 第17巻, pp.559-563	
1966	On Various Methods of Measuring the Vertical Distribution of Atmospheric Ozone (I)	Papers in Meteorology and Geophysics, Vol.17, pp.76-96.	J.Kobayashi・ M.Kyozuka
1968	大気オゾンの観測	大気球シンポジウム, 昭和43年 度, pp.143-150.	経塚 貢
1969	オゾン鉛直分布の観測	大気球シンポジウム, 昭和44年 度, pp.158-165	経塚 貢
1970	MT160-2号機によるオゾン観測	宇宙観測シンポジウム, 昭和45 年度, pp.59-62	経塚 貢・三崎方郎
1971	A Rocket Measurement of the Vertical Distribution of Atmospheric Ozone	Pap. Met. Geophys., Vol.22, pp.209-227.	M.Kyozuka・ M.Misaki
1976	オゾンゾンデの問題点	測候時報, 第43巻, pp.250-254	関原 彊・廣田道夫
1986	KC79型オゾンゾンデ用センサーの性能試験	研究時報第38巻, pp.115-118	廣田道夫
1986	オゾンゾンデ観測	気象研究所技術報告第18号第2 章, pp.29-53	旭 満・廣田道夫・ 牧野行雄・佐々木徹
	<b>B) オゾン層変動解析・理論</b>		
	<b>B1) オゾン全量</b>		
1961	日本付近のオゾン全量の変動について	研究時報, 第13巻, pp.924-937	
1963	オゾン全量観測に対する煙霧とちりの影響	研究時報, 第15巻, pp.668-671	
1963	大気オゾンと月の関係	研究時報, 第15巻, pp.672-673	
1966	オゾン全量の季節変動 (第1報)	研究時報, 第18巻, pp.515-521	
	<b>B2) 成層圏</b>		
1972	成層圏・中間圏のオゾンその他の微量成分の 分布	電離圏研究会昭和47年度, pp.92-95	経塚 貢・三崎方郎
1975	Dissociation Rates of Oxygen and Ozone Molecules in the Stratosphere and the Mesosphere	Pap. Met. Geophys., Vol.26, pp.219-264.	
1978	成層圏オゾン	理研シンポジウム「宇宙線と高 層気象」講演集, pp.44-55.	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1978	ハロゲン化炭化水素・窒素酸化物の観測とオゾン層への影響の評価	電離圏研究会昭和53年度, pp.160-163	廣田道夫・牧野行雄
1982	数値モデル	気象研究所技術報告第6号第5章, pp.155-227	牧野行雄・廣田道夫
1985	2次元光化学モデルによる成層圏オゾンの変化の予測	気象研究所昭和60年度研究発表会誌, pp.32-41	佐々木徹
1986	成層圏中部のオゾン観測	MAPシンポジウム(第6回), pp.57-58	旭満・廣田道夫・牧野行雄・佐々木徹
1987	成層圏オゾンのモデリング	環境技術Vol.16, pp.722-726	
1989	成層圏気体成分に対する太陽紫外線変動の効果	京都大学防災研究所年報第32号, B-2, pp.249-267	徐国鈞
1990	紫外線光電測定器の原理及び応用	天気, 第37巻, pp.255-259	徐国鈞
1990	成層圏オゾンの計測とフロンによるオゾン層破壊	計測と制御, Vol.29, pp.603-607	
	<b>B3) 対流圏</b>		
1980	A Case Study of the Transport of the Stratospheric Ozone into the Troposphere	Pap. Met. Geophys. Vol.31, pp.97-105.	
1982	成層圏と対流圏の交換過程の観測	気象研究所技術報告第6号第4章, pp.93-154	外山芳男・廣田道夫・牧野行雄・佐々木徹
1984	An Aircraft Observation of an Intrusion Process of Stratospheric Ozone into the Troposphere	Pap. Met. Geophys., Vol.35, pp.1-10	T.Sasaki・M.Hirota・Y.Makino
1985	Intrusion Process of Stratospheric Ozone into the Troposphere over Japan	Handbook For MAP, Vol.18, pp.391-394	Y.Makino・M.Hirota・T.Sasaki
1988	Tropospheric Ozone and Oxides of Nitrogen over the North-Western Pacific in Summer	J. Atmos. Chem., Vol.6, pp.235-250	Y.Kondo・W.A.Matthews・N.Toriyama・M.Hirota
1988	冬季の対流圏オゾンの長期変動について	京都大学防災研究所年報第31号, B-2, pp.193-200	
1989	Trends in Tropospheric Ozone and Ozone Transport From the Stratosphere	Ozone in the Atmosphere, R.D.Bojkov and P.Fabian (Eds), A.Deepak Publishing, Virginia, U.S.A., pp.535-538	
1993	地上オゾンの変動に対する風と日射の影響	第3回IGACシンポジウム講演集, pp.144-147	
1993	地上オゾンに対する輸送・生成・消滅の効果	京都大学防災研究所年報第36号, B-2, pp.121-130	
1993	Seasonal and Diurnal Variations of Surface Ozone	Proc. International Symposium on HEIFE, Kyoto, Japan, pp.676-685	
1993	中国北西部の地上オゾンの日変化・季節変化	第4回IGACシンポジウム講演集, pp.105-110	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1995	対流圏下層のオゾンに対する生成・消滅・輸送の寄与 C) オゾン層に関する気体成分の観測・解析	平成6年度科学研究費(一般研究C)研究成果報告書, 144pp	岩嶋樹也・西憲 敬
1980	赤外干渉分光器を用いた成層圏微量成分の観測	赤外線技術研究会資料 No.99, 7pp	廣田道夫・牧野行雄
1980	ハロゲン化炭化水素・窒素酸化物の観測	電離圏・大気圏シンポジウム(MAP), 昭和54年度, pp.102-105	廣田道夫・牧野行雄
1980	赤外分光器による大気微量成分の観測	MAPシンポジウム第1回, pp.128-132	廣田道夫・牧野行雄
1982	Gas-chromatographic Measurements of Dinitrogen Oxide in Air	Bull. Chem. Soc. Jpn., Vol. 55, pp.117-120	M.Hirota・Y.Makino
1982	Gas-chromatographic Measurements of Dinitrogen Oxide in Surface Air	Bull. Chem. Soc. Jpn., Vol.55, pp.2667-2668.	M.Hirota
1982	ガスクロマトグラフ法による対流圏および成層圏微量成分の分布測定	気象研究所技術報告第6号第1章, pp.51-41	廣田道夫・牧野行雄・外山芳男・佐々木徹
1982	赤外分光法による微量成分の観測	気象研究所技術報告第6号第2章, pp.43-74	牧野行雄・廣田道夫
1982	赤外分光器	MAPシンポジウム第2回, pp.192-201	牧野行雄・山内 恭・川口貞男・田中正之・小川利紘
1983	オゾン層微量成分の数値シミュレーション	理研シンポジウム「オゾン層の物理・化学」講演集, pp.74-79.	
1983	航空機によるオゾン・フロン・亜酸化窒素の観測	MAPシンポジウム(第4回), pp.83-84	廣田道夫・佐々木徹
1984	The Vertical Distribution of Atmospheric CF <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub> , CFC <sub>13</sub> and N <sub>2</sub> O over Japan	J. Met. Soc. Japan, Vol.62, pp.158-164	M.Hirota・Y.Makino・T.Sasaki・Y.Toyama
1984	Measurement of CF <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub> at Memanbetsu over the Period between October 1980 and March 1983	Pap. Met. Geophys., Vol. 35, pp.63-69	M.Hirota・F.Fukui・F.Muromatsu・M.Hashimoto・M.Kuwashima・T.Koike
1984	Infrared Measurements of Total Nitrous Oxide at Tsukuba	Memoirs of National Institute of Polar Research, Special Issue, No.34, pp.28-36	Y.Makino・M.Hirota・T.Sasaki
1984	Gas-chromatographic Measurements of Atmospheric CF <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub> , CFC <sub>13</sub> and N <sub>2</sub> O in Antarctica	Mem. Natl. Inst. Polar Res., Spec. Issue, No. 34, pp.20-27	M.Hirota・S.Chubachi・Y.Makino
1985	Spectroscopic Measurements of Atmospheric N <sub>2</sub> O at Syowa Station, Antarctica Preliminary Results	Mem. Natl. Inst. Polar Res., Spec. Issue, No.39, pp.40-50	Y.Makino・S.Kawaguchi・T.Yamanouchi・M.Tanaka・T.Ogawa



発表年	論文名	発表誌名	共著者
1985	Gas-chromatographic Measurements of Atmospheric CF <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub> , CFCl <sub>3</sub> and N <sub>2</sub> O From Tokyo to Syowa Station Late in 1983, and at Syowa Station Between February 1982 and January 1984	Mem. Natl. Inst. Polar Res., Spec. Issue, No.39, pp.57-62	M.Hirota・Y.Makino・M.Shibara・S.Chubachi
1986	Gas-chromatographic Measurements of Atmospheric Sulfur Hexafluoride	Bull. Chem. Soc. Jpn., Vol. 59, pp.329-331	M.Hirota
1986	The Vertical Distributions of Atmospheric CF <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub> , CFCl <sub>3</sub> and N <sub>2</sub> O Over Syowa Station in 1983	Mem. Natl. Inst. Polar Res., Spec. Issue No.45, pp.9-12	M.Hirota・Y.Makino
1986	太陽光の赤外分光観測に基づく大気微量成分の定量-南極MAPにおける赤外分光観測-	南極資料第87号, pp.1-22	牧野行雄・塩原匡貴・川口貞男・山内 恭・田中正之・小川利紘・増谷浩二・森井正夫
1986	ガスクロマトグラフ法による対流圏および成層圏微量化学成分の測定	気象研究所技術報告第18号第1章, pp.11-28	廣田道夫・佐々木徹・牧野行雄・旭 満
1986	航空機搭載赤外分光装置による微量成分測定	気象研究所技術報告第18号第3章, pp.55-71	牧野行雄・廣田道夫・佐々木徹
1986	赤外分光法によるN <sub>2</sub> Oの定量	気象研究所技術報告第18号, pp.210-227	牧野行雄・塩原匡貴
1986	大気微量成分濃度の広域分布	気象研究所技術報告第18号, pp.228-237	廣田道夫・牧野行雄・忠鉢 繁・塩原匡貴・村山治太
1988	Atmospheric Concentrations and Distributions of CF <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub> , CFCl <sub>3</sub> and N <sub>2</sub> O over Japan Between 1979 and 1986	J. Meteor. Soc. Japan, Vol.66, pp.703-708	M.Hirota・T.Sasaki・Y.Makino・M.Asahi
1989	Gas-chromatographic Measurement of Atmospheric Methane in Japan D) 気候 D1) 放射活性気体の観測・と室効果	Atmospheric Environment, Vol.23, pp.1835-1839	M.Hirota・Y.Makino・M.Ikegami・K.Tsutsumi
1981	Water Vapor Budget in the Lower Stratosphere over Japan	Pap. Met. Geophys., Vol.32, pp.1 - 17	
1987	Gas-chromatographic Measurements of Atmospheric Methane at Syowa Station in 1983, and Between Tokyo and Syowa Station Late in 1984	Proc. NIPR Symp. Polar Meteorol.Glaciol. Vol.1, pp.69-73	M.Hirota・H.Murayama・Y.Makino
1988	大気メタン濃度の測定について	京都大学防災研究所年報第31号, B-2, pp.201-208	高田久美子
1989	Distribution and Flux of Methane Over Hanshin District	Proc. Japan-China (Taipei) Joint Seminar on Natural Hazard Mitigation, Kyoto, Japan, 1989, pp.211-216	
1989	阪神地方のメタンの分布・発生について	京都大学防災研究所年報第32号, B-2, pp.219-229	

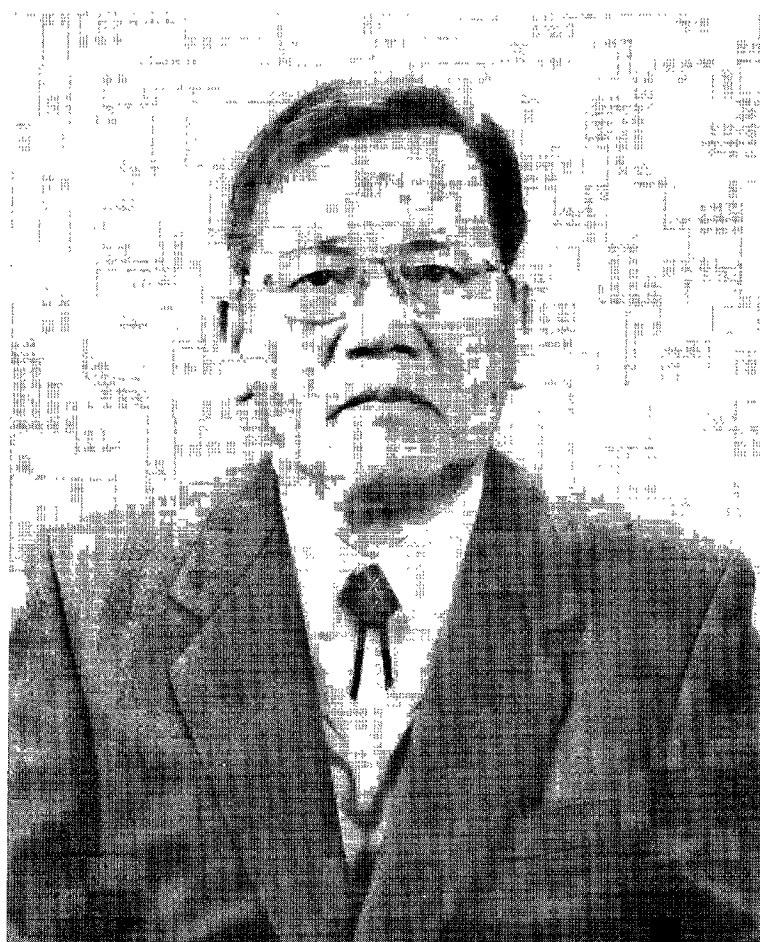
発表年	論文名	発表誌名	共著者
1989	大気中メタンの季節変化及び日変化の観測と解析	京都大学防災研究所年報第32号, B-2, pp.231-247	高田久美子
1990	メタン・亜酸化窒素・フロン等の放射外力について	京都大学防災研究所年報第33号, B-2, pp.97-110	
1991	気温変化に対する水蒸気・気温減率の変化とその放射効果	京都大学防災研究所年報第34号, B-2, pp.73-83	
1991	大気中のメタン・水蒸気の測定	第1回IGACシンポジウム報告集, pp.24-27	高田久美子
1992	対流圏下層でのオゾンの生成・消滅	第2回IGACシンポジウム報告集, pp.97-100	
1993	Methane Emission from Large Cities	Proc. Inter. Conf. on Regional Environ. and Climate Changes in East Asia, pp.408-411	
1994	Evaluation of the Production and the Destruction of Ozone in the Lower Atmosphere	Ozone in the Troposphere and Stratosphere Part 1, Edited by R.D.Hudson, NASA Conference Publication 3266, pp.142-145	
1994	都市からのメタンの発生	京都大学防災研究所年報第37号, B-2, pp.173-181	
1994	Emission of Methane from Urban Area of Kyoto	Proc. 7th IUAPPA Regional Conference on Air Pollution and Waste Issues, Taipei, Volume 1, pp.63-68	M.Kishi
1994	Emission of Methane from Cities	Proc. Air & Waste Manage. Assoc. International Specialty Conference, pp.279-283	M.Kishi
1995	Distribution and Emission of Methane in Urban Area	WMO-IGAC Conf. on Measurement and Assessment of Atmospheric Composition Change, Beijing, China, pp.264-267	M.Kishi
1995	Methane Emission in Large Cities	Terrestrial, Atmospheric and Oceanic Sciences, Vol.6, pp.367-377	
1996	都市とその周辺における大気メタン濃度とその変動(I)	情報文化研究第3号, pp.1-22	岩嶋樹也
1996	都市とその周辺における大気メタン濃度とその変動(II)	情報文化研究第4号, pp.41-64	岩嶋樹也
	<b>D2) 気候変動</b>		
1991	日本の梅雨期における降水量の年々変動と東アジアの500mb循環場	京都大学防災研究所年報第34号, B-2, pp.85-102	寺尾 徹・井上治郎
1992	アジア・西太平洋の中緯度にみられる夏季の季節内変動について	京都大学防災研究所年報第35号, B-2, pp.305-329	寺尾 徹
1993	大気オゾンと気象	京都大学防災研究所年報第36号, A, pp.1-21	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1994	都市とその周辺における気候変動	京都大学防災研究所年報第37号, B-2, pp.183-194	岩嶋樹也・西 憲敬・木田秀次・森 二郎
1996	Preliminary Analysis of Temperature Changes due to Synoptic Scale Disturbances at Syowa Station, Antarctica in Winter	Proc. NIPR Symp. Polar Meteorol. Glaciol., No.10, pp.82-91	N.Naito

解説・その他

発表年	題目	発表誌名	共著者
1976	P.J.Crutzen: オゾン全量の自然の変化と人間活動の見積もり	測候時報第43巻, pp.63-70	
1981	オゾン層の科学	公害と対策第17巻, pp.904-909	
1981	オゾン層の変化と気候影響	公害と対策第17巻, pp.924-92	
1984	太陽プロトン現象に伴うオゾン・気温変化の観測	ポーラーパトロールバルーンの開発と利用技術, p.39	
1987	気候に影響を及ぼす微量ガスの観測およびモデル計算	気象庁気候問題懇談会, 第29回, pp.14-42	
1987	自由対流圏のオゾン	気象庁図書月報, 第33巻, pp.1-5	
1988	オゾンと気象にはどんな関係があるか	気象のはなし I, 光田 寧編著, 技報堂出版, pp.59-65	
1988	大気微量成分の温室効果について	気象庁気候問題懇談会, 第36回, pp.28-44	
1988	フロン等放射活性気体の温室効果について	環境研究, 第69号, pp.81-91	
1989	気候への影響	オゾン層を守る, 環境庁「オゾン層保護検討会」編, NHKブック, pp.92-104	
1989	高層の測器及び観測	日本気象学会関西支部第11回夏季大学, pp.57-68	
1989	フロン等による温室効果とその対策について	「検証」エネルギーと地球異変, 近藤次郎監修, エネルギージャーナル社, pp.584-597	
1989	国際オゾンシンポジウム・対流圏オゾンワークショップ報告	天気, Vol.36, pp.63-68	小川利紘・川平浩二・近藤 豊・牧野行雄
1990	温暖化をもたらす気体の科学	日本気象学会関西支部第12回夏季大学, pp.54-64	
1990	フロンガス等によるオゾン層の破壊	土木学会誌別冊増刊, 地球環境とシビルエンジニア, pp.25-27	
1990	特定フロン等によるオゾン層の破壊状況と今後の行方	公害と対策, Vol.26, pp.730-733	
1992	地球温暖化と都市	京都大学防災研究所公開講座, 第3回, pp.81-104	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1993	第16回国際オゾンシンポジウム報告	天気, Vo.40, pp.55-62	小川利紘・川平浩二・ 神沢 博・近藤 豊・ 柴崎和夫・中根英昭
1994	地球温暖化とオゾン層問題	第13回エネルギー管理者研修テ キスト, pp.83-91	
1996	最近のオゾン層等の状況	かんきょう, 第21巻, pp.6-8	



光 田 寧 教 授



## 光田 寧教授略歴

(学歴・職歴)

昭和8年10月13日 奈良市に生まれる  
27年3月 奈良県立奈良高等学校卒業  
27年4月 京都大学理学部地球物理学科入学  
31年3月 京都大学理学部地球物理学科卒業  
31年4月 京都大学大学院理学研究科修士課程入学  
33年3月 京都大学大学院理学研究科修士課程修了  
京都大学理学修士  
33年4月 京都大学大学院理学研究科博士課程入学  
35年3月 京都大学大学院理学研究科博士課程第2学年退学  
35年4月 京都大学理学部助手  
36年8月 京都大学防災研究所助手  
39年4月 京都大学防災研究所助教授  
京都大学大学院理学研究科担当  
42年9月 京都大学理学博士  
48年4月 京都大学大学院工学研究科担当  
52年5月 京都大学防災研究所教授  
平成9年3月 停年退官  
9年4月 京都大学名誉教授

(学会賞等)

昭和46年5月 日本気象学会賞 受賞  
平成8年5月 日本気象学会藤原賞 受賞  
9年6月 日本風工学会功績賞 受賞

光 田 寧 研 究 業 績  
論 文

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
	台風に関する研究		
1962	台風域内の風の分布の推算法	京大防災研究所年報, 第5号, pp.139-146	山元龍三郎
1963	日本本土に上陸した台風の統計的な性状について	海と空, 第39巻, 第4号, pp.6-9	宮田賢二
1963	第2室戸台風通過時の強風の分布について	京大防災研究所年報, 第6号, pp.113-127	山元龍三郎・宮田賢二
1965	台風20号にともなった暴風について	京大防災研究所年報, 第8号, pp.593-604	山元龍三郎・宮田賢二 田平 誠
1965	標準計画台風について (1)	京大防災研究所年報, 第8号, pp.605 -612	
1966	標準計画台風について (2)	京大防災研究所年報, 第9号, pp.267-272	
1968	第2宮古島台風に伴った暴風の特性について	京大防災研究所年報, 第11号A, pp.507-516	宮田賢二・吉住禎夫
1968	Characteristics of Second Miyakojima Typhoon	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.18, Part 1, pp.15-34	S.Yoshizumi
1969	Studies of the Third Miyakojima Typhoon	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.19, Part 1, pp.45-85	H.Ishizaki・ R.Yamamoto・ T.Murota・T.Maitani
1970	第3宮古島台風による建造物の風災害について	京大防災研究所年報, 第13号A, pp.449-461	石崎潑雄・ 山元龍三郎・室田達郎
1972	台風7010の通過に伴う中国・四国地方の風について	京大防災研究所年報, 第15号B, pp.247-254	川平浩二
1972	台風7123号の減衰過程について—台風の移動の及ぼす海陸の分布影響—	京大防災研究所年報, 第15号B, pp.275-283	山元龍三郎・浅井冨雄・ 藤井 健・川平浩二
1973	Periodic Variations of Pressure, Wind and Rainfall Observed at Miyakojima during the Second Miyakojima Typhoon	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.51, No.6, pp.475-485	S.Yoshizumi
1973	潮岬において観測された台風眼通過時の風の特性について	京大防災研究所年報, 第16号B, pp.285-291	森 征洋
1974	Preliminary Results of Typhoon Wind Observation at Tarama Island, Okinawa	Wind Effects on Structures, ed. by H.Ishizaki and A.Chiu, Univ. Tokyo Press, pp.27-37	
1974	台風の構造のモデル化について (1)	京大防災研究所年報, 第17号B, pp.227-234	藤井 健・川平浩二
1975	被害台風の構造のモデル化について (2)	京大防災研究所年報, 第18号B, pp.227-243	藤井 健・川平浩二
1976	被害台風の構造のモデル化について (3)	京大防災研究所年報, 第19号 B-1, pp.293-302	藤井 健・川平浩二



発表年	論文名	発表誌名	共著者
1978	改良された標準計画台風	京大防災研究所年報, 第21号 B-1, pp.393-404	藤井 健・文字信貴・ 川平浩二・塚本 修
1978	八重山群島を襲った台風5号 (7705) の気象学的特性について	京大防災研究所年報, 第21号 B-1, pp.405-415	文字信貴・塚本 修・ 浅井東洋
1978	沖永良部島を襲った台風9号 (7709) の気象学的特性について	京大防災研究所年報, 第21号 B-1, pp.417-425	山元龍三郎・ 文字信貴・塚本 修・ 末延龍雄
1979	改良された標準計画台風 (2) — friction free windと地表風の対比—	第16回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集, pp.71-74	藤井 健・川平浩二
1979	北九州地方を襲った台風18号 (7818) の気象学的特性について	京大防災研究所年報, 第22号 B-1, pp.407-418	藤井 健・末延龍雄
1980	移動する台風の気圧場から求めた傾度風と実測風の比較—標準計画台風の通過にともなう地表風のシミュレーションの方法の開発の準備—	京大防災研究所年報, 第23号 B-1, pp.271-279	藤井 健・川平浩二
1980	台風の中心付近の構造について	京大防災研究所年報, 第23号 B-1, pp.281-287	末延龍雄
1980	台風7916号について	京大防災研究所年報, 第23号 B-2, pp.87-111	中島暢太郎・ 後町幸雄・田中正昭・ 藤井 健・文字信貴
1982	台風域内における地表風のシミュレーション	京大防災研究所年報, 第25号 B-1, pp.273-282	藤井 健・塚本 修
1984	日本に來襲する台風とそれに伴う強風の数值解析	京大防災研究所年報, 第27号 B-1, pp.325-337	藤井 健
1984	気象衛星ひまわりの赤外輝度データでみた台風8013 (ORCHID) のライフサイクル	京大防災研究所年報, 第27号 B-1, pp.273-284	柿本 均
1985	On the Characteristics of Severe Typhoons and Disasters Caused by Their High Winds in Japan	Proc. ROC-JAPAN Joint Seminar on Multiple Hazards Mitigation, pp.917-933	T.Fujii・K.Kawahira
1985	日本本土に來襲する台風の統計的性質について	京大防災研究所年報, 第28号 B-1, pp.463-473	藤井 健・塚本 修
1985	急激に発達した台風 (T8305) の人工衛星赤外面像に現れた特徴について	京大防災研究所年報, 第28号 B-1, pp.449-461	柿本 均
1986	台風の確率モデルの作成とそれによる強風のシミュレーション	京大防災研究所年報, 第29号 B-1, pp.229-239	藤井 健
1987	Analysis and Synthesis of Typhoon Wind Pattern over Japan	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.37, Part 4, pp.169-185	T.Fujii
1987	台風T8013号 (ORCHID) の発生期の流れの場について	京大防災研究所年報, 第30号B-1, pp.259-269	邊田有理江
1988	Supergradient Surface Wind in the Eye of a Typhoon	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.66, pp.505-508	T.Suenobu・T.Fujii

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1988	台風発生数の経年変動について	京大防災研究所年報, 第31号 B-1, pp.167-175	藤井 健・山元龍三郎
1988	Analysis of Typhoon Pressure Patterns over Japanese Islands: The Data and the Results of Analysis	Severe Storm Res. Note, Severe Storm Res. Div., Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., No.3, pp.71-100	O.Tsukamoto・T.Fujii
1988	台風発生期の流れの場についての解析	京大防災研究所年報, 第31号 B-1, pp.219-236	邊田有理江
1989	Simulation by Stochastic Model of Typhoons Hitting Japan	Proc. Japan-China(Taipei) Joint Seminar on Natural Hazard Mitigation, pp.225-234	T.Fujii
1989	熱帯における台風の発生と関連した解析	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.321-333	邊田有理江
1989	日本南方洋上における台風の確率モデルの作成	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.335-348	藤井 健
1990	太平洋熱帯域での擾乱の発生について	京大防災研究所年報, 第33号 B-1, pp.237-247	邊田有理江
1990	台風の強風の性質と確率モデルによるシミュレーション	天気, Vol.37, No.5, pp.324-328	藤井 健
1991	熱帯低気圧をとりまく3次元風の場の解析	京大防災研究所年報, 第34号 B-1, pp.29-38	邊田有理江
1991	台風9019号の強風とその被害について	京大防災研究所年報, 第34号 B-1, pp.39-48	林 泰一
1992	台風による強風の出現確率の予測について—海上風の予測—	自然災害科学, 11巻, 3号, pp.125-144	藤井 健
1992	台風9119号の解析と強風の分布について	京大防災研究所年報, 第35号 B-1, pp.183-191	藤井 健・林 泰一
1992	台風9019号の解析とレインバンドについて	京大防災研究所年報, 第35号 B-1, pp.193-204	劉 迎・藤井 健
1992	台風9018号と台風9019号の発達過程について	京大防災研究所年報, 第35号 B-1, pp.205-214	邊田有理江
1993	1991年台風19号による風と被害との関係について	京大防災研究所年報, 第36号 B-1, pp.1-16	藤井 健
1993	北西太平洋における海面水温と台風の発達の間関係	京大防災研究所年報, 第36号 B-1, pp.27-36	藤井 健
1994	台風9313号の気圧と強風の分布の特性について	京大防災研究所年報, 第37号 B-1, pp.35-46	藤井 健
1995	台風の気圧分布形について	京大防災研究所年報, 第38号 B-1, pp.101-116	藤井 健
1996	A Predicting Method of Typhoon Wind Damages	Proc. 7th Specialty Conf. Engineering Mechanics and Structural Divs./ASCE, pp.970-973	T.Fujii・I.Nagashima

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1966	台風風の風速と被害との関係について <u>強風の性質に関する研究</u>	京大防災研究所年報, 第39号 B-1, pp.129-134	藤井 健
1962	強風時における突風の拡がり と突風率について	京大防災研究所年報, 第5号, pp.135 -138	石崎潑雄
1962	Gust Factor and Analysis Time of Gust	Jour. Meteor. Soc. Japan, Ser. II, Vol.40, No.4, pp.242-244	
1963	Studies on Peak Gust	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.2, pp.147-157	
1963	強風時における乱れのスペクトルについて	京大防災研究所年報, 第6号, pp.104-112	
1964	暴風時における風速の垂直成分について	京大防災研究所年報, 第7号, pp.199-206	
1966	京都タワーで観測した風の記録について	京大防災研究所年報, 第9号, pp.273-280	
1966	Observational Study of Turbulent Structure of High Winds, Part 1	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.16, Part 1, pp.1-9	H.Ishizaki
1968	風速変動の長周期成分について	京大防災研究所年報, 第11号A, pp.489-497	石崎潑雄・花房龍男
1968	暴風時における風圧力の変動について	日本建築学会論文報告集, 第150号, pp.33-38	石崎潑雄
1969	風速変動の長周期成分について (2)	京大防災研究所年報, 第12号A, pp.227-235	石崎潑雄・佐野雄二
1969	暴風時における風の乱れの研究 (1)	京大防災研究所年報, 第12号A, pp.237-244	石崎潑雄
1970	Contribution of Raindrops to Wind Effects in the Storm	Proc. Seminar on Wind Loads on Structures, pp.27-38	
1971	A Case Study of Wind over a Hilly Terrain	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.21, Part 2, pp.179-189	Y.Mori・K.Miyata
1971	Characteristics of Airflow over the Barriers in the Storm	Wind Effects on Buildings and Structures, Proc. Wind Conf., pp.4-1-4-12	
1973	風速の空間的および時間的変動の性質について	京大防災研究所年報, 第16号B, pp.293-304	加藤晶子
1974	Structure of the Planetary Boundary Layer in High Winds Observed from a 0.5-km TV Tower	Wind Effects on Structures, ed. by H.Ishizaki and A.Chiu, Univ. Tokyo Press, pp.69-78	T.Hanafusa
1974	都市上空の大気の乱れの性質について	気象研究ノート, 第119号, pp.133-141	中野道雄・竹内清秀・ 花房龍男

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1974	評価時間と評価距離を考慮した突風率の表現について	京大防災研究所年報, 第17号B, pp.219-225	藤谷徳之助・加藤晶子
1974	強風時における風速変動のスペクトルについて	京大防災研究所年報, 第17号B, pp.235-240	森 征洋
1978	Drag Coefficients in Light Wind	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.28, Part 2, pp.25-32	O.Tsukamoto
1978	強風時における風の乱れの空間分布について	第5回構造物の耐風性に関するシンポジウム論文集, pp.45-50	塚本 修
1978	強風時における風速変動の空間相関について	京大防災研究所年報, 第21号B-1, pp.427-436	塚本 修
1979	Calibration of Anemometers on the Tarama Tower during AMTEX	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.57, pp.93-95	N.Monji・O.Tsukamoto
1979	強風時の風速変動のモデルの作成	第16回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集, pp.123-124	塚本 修
1980	潮岬における突風前線の観測について (1)	京大防災研究所年報, 第23号B-1, pp.257-270	石崎潑雄・林 泰一
1980	時間的空間的拡がりを考慮した突風率について	第6回風工学シンポジウム論文集, pp.25-30	塚本 修
1980	強風時における風の乱れの空間的構造	京大防災研究所年報, 第23号B-1, pp.303-323	塚本 修
1982	山岳地における風の乱れの空間分布について	第7回風工学シンポジウム論文集, pp.45-50	塚本 修・根井 充
1983	日本海における季節風時の波浪予知 (1) 一海上風の推定一	京大防災研究所年報, 第26号B-2, pp.587-598	藤井 健・塚本 修
1983	山岳地における風速変動の風向横方向の空間相関	京大防災研究所年報, 第26号B-1, pp.363-374	塚本 修・根井 充
1983	Wind Characteristics over Complex Terrain	Proc. 6th Int. Conf. on Wind Engineering	O.Tsukamoto・M.Nenoi
1984	Spatial Distribution of Wind Turbulence over Complex Terrain (2)	Proc. 8th Symp. on Wind Eng., pp.25-30	O.Tsukamoto
1984	Wind Characteristics over Complex Terrain	Jour. Wind Eng. Ind. Aerody., Vol.15, pp.185-196	O.Tsukamoto・M.Nenoi
1985	スプライン法を用いた海上風推算における気圧データ作成方法	第32回海岸工学講演会論文集, pp.134-138	安中 正・土屋義人・藤井 健・大下哲則
1986	積乱雲からの下降流に伴う突風の観測 (1)	京大防災研究所年報, 第29号B-1, pp.241-250	文字信貴
1987	台風域内の強風と地形との間の統計的關係についての一考察	京大防災研究所年報, 第30号B-1, pp.279-285	藤井 健
1989	Studies on Spatial Structure of Wind Gust	Jour. Appl. Meteor., Vol.28, pp.1155-1160	O.Tsukamoto

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1989	小地形上での気流の数値的シミュレーションについて	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.389-398	山田道夫・堀口光章・樋口宗彦
1990	小地形上の気流のシミュレーションについて	京大防災研究所年報, 第33号 B-1, pp.249-257	佐々木嘉和・樋口宗彦・邊田有理江
1990	風速変動のウェーブレット解析	京大防災研究所年報, 第33号 B-1, pp.285-295	山田道夫・樋口宗彦・林 泰一
1991	1991年6月27日, 岡山市で発生したダウンバーストに伴う陣風(突風)	日本風工学会誌, 49巻, pp.35-39	林 泰一
1991	余部峡谷における局地的強風の性状について	京大防災研究所年報, 第34号 B-1, pp.13-18	樋口宗彦・山田道夫
1993	最大瞬間風速と突風率の測定について	京大防災研究所年報, 第36号 B-1, pp.17-25	堀口光章
1994	ドップラーソーダによる山岳地での上空風観測	京大防災研究所年報, 第37号 B-1, pp.23-34	堀口光章
1995	山岳地における風の分布と乱流特性	京大防災研究所年報, 第38号 B-1, pp.85-100	堀口光章
1995	花巻空港付近の気流の特性について	京大防災研究所年報, 第38号 B-1, pp.163-172	岩田 徹
1996	ソーダで測定した上空風と地表風の関係について	京大防災研究所年報, 第39号 B-1, pp.135-141	岩田 徹
	<u>地空相互作用に関する研究</u>		
1966	Direct Measurement of Vorticity near the Ground	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.6, pp.43-46	
1967	A Direct Measurement of Vertical Transport of Turbulent Kinetic Energy in the Air Layer near the Ground with Sonic Anemometer	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.7, pp.71-80	M.Maitani
1968	Application of Sonic Anemometer-Thermometer to the Studies of Vertical Eddy Transport Processes in the Atmospheric Boundary Layer	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.8, pp.45-60	
1968	Some Results of Direct Measurements of Momentum Flux in the Atmospheric Boundary Layer by Sonic Anemometer	Jour. Meteor. Soc. Japan, Ser. II, Vol.46, pp.29-35	
1969	Sonic Anemometer Comparison and Measurements in the Atmospheric Surface Layer	Jour. Meteor. Soc. Japan, Ser. II, Vol.47, pp.1-12	J.A.Businger・M.Miyake・E.Inoue・T.Hanafusa
1969	航行中の船舶による海上での乱流測定法について	京大防災研究所年報, 第12号A, pp.245-259	花房龍男・米谷俊彦
1970	Experimental Studies of Turbulent Transfer Processes in the Boundary Layer over Bare Soil	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.19, Part 4, pp.45-58	T.Hanafusa・T.Maitani

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1970	Airborne Measurement of Turbulent Fluxes	Jour. Geophys. Res., Vol.75, pp.4506-4518	M.Miyake・M.Donelan
1970	Turbulent Fluxes over the Lake Kasumigaura	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.10, pp.75-84	T.Hanafusa・T.Maitani・T.Fujitani
1970	Measurement of Eddy Momentum Flux near the Ground	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.10, pp.85-91	T.Fujitani・T.Hanafusa
1970	The Measurement of the Energy Dissipation Rate in the Surface Boundary Layer	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.10, pp.59-74	M.Gamo・T.Maitani
1970	航行中の船舶による海上での乱流測定法について(2)	京大防災研究所年報, 第13号A, pp.419-432	花房龍男・米谷俊彦
1971	超音波風速温度計とその大気境界層研究への応用	天気, Vol.18, No.8, pp.377-385	
1972	Climatological Studies on Air-Sea Interaction over the Northwestern Pacific	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.22, pp.37-51	A.Kato
1973	琵琶湖からの蒸発量の推定について(I)	京大防災研究所年報, 第16号B, pp.327-341	花房龍男・文字信貴・塚本修・林泰一
1973	Measurements of Turbulent Fluxes over a Lake Surface	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.13, pp.35-52	T.Hanafusa・M.Monji・O.Tsukamoto・T.Hayashi
1973	A Study of Energy Budget at the Air-Ground Interface	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.22, part 4, pp.249-257	T.Hanafusa・O.Tsukamoto・H.Kawanishi
1973	乱流輸送量の実時間測定法について	京大防災研究所年報, 第16号B, pp.305-317	花房龍男・藤谷徳之助
1974	Direct Measurement of Turbulent Fluxes on a Cruising Ship	Boundary-Layer Meteor., Vol.6, pp.203-217	T.Fujitani
1975	多良間島における地空相互作用について	京大防災研究所年報, 第18号B, pp.189-201	文字信貴・林泰一
1975	航行中の船舶による海上での乱流測定法について(3)	京大防災研究所年報, 第18号B, pp.211-226	藤谷徳之助・林泰一
1976	多良間島における地空相互作用(II)	京大防災研究所年報, 第19号B-1, pp.303-313	文字信貴・塚本修
1976	Structure of the Atmospheric Boundary Layer Derived from Airborne Measurements of the Energy Dissipation Rate $\epsilon$	Jour. Meteor. Soc. Japan, Ser. II, Vol.54, pp.241-258	M.Gamo・O.Yokoyama・S.Yamamoto
1977	大雨見山山頂付近の温度変動の特性について	京大防災研究所年報, 第20号B-1, pp.145-156	文字信貴・林泰一・伊藤芳樹
1978	接地気層における渦度とその輸送について	京大防災研究所年報, 第21号B-1, pp.445-452	浅井東洋
1979	Air-Sea Heat Exchanges Associated with Mesoscale Phenomena during AMTEX	Proc. 17th General Assembly of IUGG, pp.404	T.Hayashi・T.Fujitani

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1981	熱帯海洋上の大気境界層の構造	京大防災研究所年報, 第24号 B-1, pp.371-380	文字信貴・吉門 洋
1981	熱帯海洋上における接地気層の乱流特性	京大防災研究所年報, 第24号 B-1, pp.357-370	塚本 修・藤谷徳之助
1983	大気境界層における乱流エネルギー収支の研究	京大防災研究所年報, 第26号 B-1, pp.375-383	塚本 修・片岡 毅
1983	大気境界層における水蒸気変動の乱流特性	京大防災研究所年報, 第26号 B-1, pp.385-392	塚本 修
1984	The Effects of Mesoscale Convective Cells on the Surface Wind Field over the Ocean	Boundary-Layer Meteor., Vol.29, pp.75-84	H.Ishida・W.V.Burt
1984	A Sonic Anemometer for the Measurement of Vorticity and Its Transport in the Surface Layer	Experiments in Fluids, Vol.2, pp.150-152	H.Asai
1984	湖面蒸発量の直接測定について	水資源研究センター研究報告, 第4号, pp.3-22	塚本 修
1984	大気境界層における乱流エネルギー収支の研究 (2)	京大防災研究所年報, 第27号 B-1, pp.285-301	塚本 修・片岡 毅
1984	大気境界層における水蒸気輸送過程の研究	京大防災研究所年報, 第27号 B-1, pp.303-312	塚本 修
1985	Convective Motions in the Cumulus Subcloud Layer	Jour. Climate and Appl. Meteor., Vol.24, No.9, pp.993-1000	S.Uchida
1985	裸地面におけるエネルギー輸送の研究	京大防災研究所年報, 第28号 B-1, pp.415-426	里田弘志・文字信貴
1986	Comparison of Aircraft and Tower Measurements around Tarama Island during the AMTEX'75	Jour., Climate and Appl. Meteor., Vol.25, pp.1946-1955	N.Monji・ D.H.Lenschow
1986	大気と地表面間におけるエネルギー交換過程の観測 (1)	京大防災研究所年報, 第29号 B-1, pp.271-281	池淵周一・田中正昭・ 文字信貴・小尻利治
1987	大気と地表面間におけるエネルギー交換過程の観測 (2)	京大防災研究所年報, 第30号 B-1, pp.287-295	池淵周一・文字信貴・ 小尻利治・玉川一郎
1987	長大栈橋を利用した大気・海洋相互作用の観測	京大防災研究所年報, 第30号 B-1, pp.297-308	土屋義人・塚本 修・ 大滝英治・岩谷祥美
1988	地表面水分量と地表面温度の変化との関係について	京大防災研究所年報, 第31号 B-1, pp.237-241	玉川一郎・山田道夫・ 池淵周一
1989	Measurement of the Carbon Dioxide Flux over Japan	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.67, pp.541-554	E.Ohtaki・ O.Tsukamoto・ Y.Iwatani
1989	裸地における蒸発と地面水分量の関係について	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.299-309	玉川一郎
1989	境界層過程の数値シミュレーション (I)	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.381-387	池淵周一・山田道夫・ 玉川一郎

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
1990	On-Board Direct Measurements of Turbulent Fluxes over the Open Sea	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.68, pp.203-211	O.Tsukamoto • E.Ohtaki • H.Ishida • M.Horiguchi
1990	Peculiar Downward Water Vapor Flux over Gobi Desert in the Daytime	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.68, pp.399-402	J.Wang
1990	A Year-round Test Meteorological Observation in the Desert of HEIFE Area, North-west China	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.40, Part 3, pp.111-129	J.Inoue
1990	Intercomparison of Fast Response Carbon Dioxide Sensors under Field Conditions	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.40, Part 4, pp.131-142	E.Ohtaki • O.Tsukamoto • T.Maitani • Y.A.Volkov • L.G.Elagina • R.L.Desjardins
1991	Turbulence Structure and Transfer Characteristics in the Surface Layer of the HEIFE Gobi Area	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.69, pp.587-593	J.Wang
1991	An Independent Method to Determine the Surface Roughness Parameter	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.41, Part 2, pp.121-127	J.Chen • J.Wang
1992	Evaporation from the Desert: Some Preliminary Results of HEIFE	Boundary-Layer Meteor., Vol.59, pp.413-418	J.Wang
1992	An Observational Study of Turbulent Structure and Transfer Characteristics in Heihe Oasis	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.70, pp.1147-1154	J.Wang
1992	A Significant Evening Peak of Vapor Pressure at an Oasis in the Semi-Arid Region	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.70, pp.1155-1160	O.Tsukamoto•J.Wang
1992	An Analysis on the Vertical Structure of Wind Field Sounded by Doppler Sodar at Huayin	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.42, Part 4, pp.115-124	T.Pan • Y.Hu • P.Lin
1992	A Phenomenon of Inverse Humidity Gradient and Negative Vapor Flux over the Desert in the Daytime as Observed from Mast Profile	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.42, Part 4, pp.125-135	X.Yang • Y.Hu • J.Cai K.Sahashi
1992	中国西北部砂漠地域におけるプラネタリー境界層の観測	京大防災研究所年報, 第35号 B-1, pp.235-244	永井晴康 • 山田道夫
1993	An Evaluation of Evaporation over the Tropical Pacific Ocean as Observed from Satellites	Jour. Appl. Meteor., Vol.32, pp.1242-1247	Y.Heta
1993	A Simple Three Dimensional Flow Model and its Preliminary Results over HEIFE Area	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.105-116	J.Chen • L.Pan • K.Sahashi • Y.Hu
1993	Salinization due to Evaporation from a Bare-soil Surface.	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.158-165	E.Shimajima • R.Yoshioka • I.Tamagawa



発表年	論文名	発表誌名			共著者
1993	Influences of Salinization on Evaporation from a Bare-soil Surface	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.166-173		E.Shimajima • I.Tamagawa • R.Yoshioka
1993	Precipitable Water and Water Vapor Flux over HEIFE Area	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.242-251		T.Itano
1993	Seasonal Variations of the Mixed Layer Characteristics in the HEIFE Area	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.316-321		M.Gamo • M.Hayashi • I.Tamagawa
1993	Some Results of a Turbulence Comparison Experiment IOP-C at the HEIFE Gobi Station	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.331-338		K.Sahashi • O.Tsukamoto • J.Wang • J.Chen
1993	An Experiment and the Results on Flux-gradient Relationships in the Atmospheric Surface Layer over Gobi Desert Surface	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.349-362		H.Zhang • J.Chen • A.Zhang • J.Wang
1993	Evaporation at Desert Station in HEIFE	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.379-390		I.Tamagawa
1993	Evaporation from the Desert	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.391-395		J.Wang • Y.Hu
1993	Features of Wind Field at the Desert Station and the Oasis Station	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.396-401		K.Sahashi • O.Tsukamoto • J.Chen
1993	The Heat Budget in Mixed Layer over Transitional Area between Gobi and Oasis	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.412-423		J.Chen • Z.Chen • J.Qiao • N.Pan
1993	Peculiar Daily Course of the Specific Humidity and the Air Temperature over Zhangye Field	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.430-436		K.Sahashi • O.Tsukamoto • J.Wang
1993	Downward Sensible Heat Flux during Daytime Observed in the Oasis Station	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.449-457		J.Wang • Y.Ma • L.Jia • K.Sahashi • E.Ohtaki • O.Tsukamoto • T.Maitani
1993	Variation of Heat Budget Accompanied by Plant Growth	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.458-465		O.Tsukamoto • K.Sahashi • J.Wang • Z.Shen
1993	Seasonal Variation of Evapotranspiration from Zhangye Field	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.466-472		O.Tsukamoto • E.Ohtaki • K.Sahashi • T.Maitani • K.Kai • M.Horiguchi • J.Wang • S.Li
1993	Energy and Mass Transfer Characteristics of Soil-Vegetation-Atmosphere System in Oasis Area -Outline of the Biometeorological Observation Period (BOP)	Proc. Int. Symp. HEIFE,	pp.507-514		J.Wang • K.Sahashi • O.Tsukamoto • T.Maitani • E.Ohtaki • T.Kobayashi • E.Shimajima • H.Zheng • Q.Li • Z.Xie

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
1993	Measurements of Photosynthesis and Transpiration Rates of the Single Leaf of Wheat Plants Grown in Zhangye Oasis	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.515-521	T.Maitani • K.Sahashi•E.Ohtaki• O.Tsukamoto • R.Suzuki • J.Wang • H.Zheng
1993	Turbulent Transport of Carbon Dioxide over Wheat Field in the Oasis	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.542-548	E.Ohtaki•K.Sahashi• T.Maitani • O.Tsukamoto • R.Suzuki • J.Wang • H.Zheng
1993	Comparison of Measurements and Model Simulation of Micrometeorology in a Wheat Field in Zhangye Oasis	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.566-574	T.Maitani • K.Sahashi • E.Ohtaki • O.Tsukamoto • J.Wang
1993	中国沙漠域での乱流輸送量の観測—HEIFE 沙漠観測点での乱流輸送量の観測結果について—	京大防災研究所年報, 第36号 B-1, pp.37-48	玉川一郎・堀口光章
1994	砂漠からの蒸発について HEIFE砂漠観測点での年間蒸発量の推定	京大防災研究所年報, 第37号 B-1, pp.1-8	玉川一郎
1995	Surface Energy Balance Measurements around Ocean Weather Station-T during OMLET/WCRP	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.73, pp.13-23	O.Tsukamoto • H.Ishida
1995	Measurements of Turbulent Fluxes and Model Simulation of Micrometeorology in a Wheat Field at Zhangye Oasis	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.73, pp.959-965	T.Maitani • K.Sahashi•E.Ohtaki• O.tsukamoto•J.Wang
1995	Estimation of Annual Evaporation from the Linze Desert During HEIFE	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.73, pp.967-974	I.Tamagawa • K.Sahashi • J.Wang
1995	中国北西部沙漠での地空相互作用	京大防災研究所年報, 第38号 B-1, pp.117-128	玉川一郎・今木和裕
1996	Eddy Correlation Measurements of Carbon Dioxide Flux over Coastal Sea Surface	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.45, Parts 2,3, pp.17-25	X.Liu • H.Ito • S.Nakamura • H.Yoshioka • T.Hayashi • S.Serizawa • E.Ohtaki
	<u>気象測器に関する研究</u>		
1964	A New Floating Evaporimeter	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.4, pp.119-125	
1964	超音波風速計とその試作	天気, Vol.11, No.2, pp.33-40	水間満郎
1964	潮岬風力実験所における風力観測用測器について	京大防災研究所年報, 第7号, pp.207-217	棚橋 諒・石崎潑雄
1966	Sonic Anemometer-Thermometer for General Use	Jour. Meteor. Soc. Japan, Ser., Vol.44, pp.12-24	
1966	A New Reduction Method of Anemometer-Bivane Data	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.6, pp.39-42	
1967	An Infrared Absorption Hygrometer and its Application to the Study of the Water Vapor Flux near the Ground	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.7, pp.83-94	H.S.Chen

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1967	A Comparative Observation of Sonic Anemometer and Traditional Method of Vertical velocity Measurement	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.7, pp.61-70	M.Mizuma・K.Sahashi
1967	A New System for Measurement of Turbulent Transport Processes	The Collection and Processing of Field Data, ed. by E.F.Bradley and O.T.Donmend, Inter. Science Publishers, New York, pp.47-54	T.Hanafusa・K.Sahashi
1968	Dynamic Response of the Hygrometer Using Fine Thermocouple Psychrometer	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.8, pp.61-70	Y.Sano
1970	種々の風速計の比較について	京大防災研究所年報, 第13号A, pp.441-448	
1971	大気乱流の実時間解析について	京大防災研究所年報, 第14号A, pp.505-511	花房龍男・藤谷徳之助
1971	Sonic Anemometer for Atmospheric Turbulence Measurements	Flow its Measurement and Control in Science and Industry, ed. by B.Dowdell, Instrument Soc. of Amer. Vol.1, pp.341-347	
1972	プロペラ型風速計の斜風に対する特性について	京大防災研究所年報, 第15号B, pp.255-264	蒲生 稔・吉川裕三・藤谷徳之助
1973	平均流速および風向の評価方法について	京大防災研究所年報, 第16号B, pp.319-325	森 征洋・藤谷徳之助・花房龍男
1975	風向変動幅の測定法とその応用	京大防災研究所年報, 第18号B, pp.203-210	塚本 修・加藤晶子
1977	音波探査装置による大気境界層の観測	京大防災研究所年報, 第20号B-1, pp.157-172	伊藤芳樹
1979	電波音波複合探査装置 (RASS) の可能性について	京大防災研究所年報, 第22号B-1, pp.419-427	伊藤芳樹
1979	局地異常気象観測解析装置について	京大防災研究所年報, 第22号B-2, pp.127-141	中島暢太郎・田中正昭・中村 武
1979	赤外線湿度計と熱電対乾湿計の比較観測について	京大防災研究所年報, 第22号B-1, pp.429-436	塚本 修
1980	風の遠隔測定のための音波探査器	京大防災研究所年報, 第23号B-1, pp.325-334	伊藤芳樹・内田 諭
1981	大気境界層の遠隔測定法の開発	京大防災研究所年報, 第24号B-1, pp.381-389	塚本 修・内田 諭
1982	A New Type Sonic Anemometer-Thermometer for Field Operation	Papers in Meteorology and Geophysics, Vol.33, No.1, pp.1-19	T.Hanafusa・T.Fujitani・Y.Kobori
1982	種々の湿度計を用いた水蒸気輸送量の直接測定	京大防災研究所年報, 第25号B-1, pp.283-295	塚本 修
1984	Development of a Laboratory Simulator for Small Scale Atmospheric Vortices	Jour. Nat. Disas. Sci., Vol.6, pp.43-54	N.Monji

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1985	Development of a Sodar for the Study of Planetary Boundary Layer	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.35, Part 1, pp.1-20	Y.Ito・S.Murabayashi
1985	合成開口方式による音波探査装置の可能性	京大防災研究所年報, 第28号 B-1, pp.437-447	村林 成
1986	開口合成ドップラー・ソーダの実用化	京大防災研究所年報, 第29号 B-1, pp.251-259	村林 成
1986	蒸発量直接測定のための熱電対乾湿球温度計の補正法	京大防災研究所年報, 第29号 B-1, pp.261-270	塚本 修
1987	大気境界層の気温高度分布の測定のためのマイクロ波放射計について	京大防災研究所年報, 第30号 B-1, pp.271-278	堀口光章
1988	容量型湿度計の特性について	京大防災研究所年報, 第31号 B-1, pp.183-191	森 征洋
1988	大気境界層の気温高度分布の測定のためのマイクロ波放射計について (II)	京大防災研究所年報, 第31号 B-1, pp.193-199	堀口光章・竹久正人
1989	Development of Wind Profiling Sodar	Jour. Atmos. Oceanic Technol., Vol.6, pp.779-784	Y.Ito・Y.Kobori・M.Horiguchi・M.Takehisa
1989	マイクロ波放射温度計とソーダの組合せによる大気境界層の遠隔測定法の開発	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.361-368	山田道夫・堀口光章・竹久正人
1989	開口合成ドップラーソーダの米国ボルダーにおける国際比較観測について	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.369-379	堀口光章・竹久正人
1989	The Development of a Fast Response Static Pressure Instrument for Field Use	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.67, pp.351-357	T.Kataoka・O.Tsukamoto
1991	新しい乱流輸送観測装置について	京大防災研究所年報, 第34号 B-1, pp.19-27	玉川一郎・今木和裕
1992	Precision and Relative Accuracy of a Phased Array Doppler Sodar	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.42, Part 2, pp.65-70	M.Takehisa・Y.Ito・T.Kataoka
1994	Development of Phased Array Doppler Sodar	Proc. 7th Int. Symp. Acoustic Sensing and Associated Techniques of the Atmos. and Oceans, pp.3.61-3.66	Y.Ito・T.Uzawa・T.Hanafusa
	<u>その他</u>		
1962	鳴門海峡付近の小旋風について	海と空, 第38巻, 第2号, pp.27-31	
1962	黒部川上流域における降雨分布について	電力気象連絡会彙報, 第13巻, 2号, pp.94-103	
1965	Winter Precipitation on High Mountains	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.5, pp.73-79	
1966	Blast Fenceに関する研究 (1)	京大防災研究所年報, 第9号, pp.243-256	石崎潑雄・桂 順治

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1967	暴風時における雨滴あるいは水滴の破壊作用について	京大防災研究所年報, 第10号A, pp.377-384	
1968	暴風災害を考える際の小規模擾乱の重要性	京大防災研究所年報, 第11号A, pp.499-506	
1969	Blast Fenceに関する研究(2)	京大防災研究所年報, 第12号A, pp.261-272	石崎潑雄・桂 順治・室田達郎
1970	Rainfall Deposit on a Wall of a Buildings in Storm	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.20, Part 2, pp.95-103	H.Ishizaki・Y.Sano
1970	暴風雨時に壁面に衝突する雨について	京大防災研究所年報, 第13号A, pp.433-439	石崎潑雄・佐野雄二
1971	1969年12月7日豊橋市を襲った「たつまき」の実態とその被害について	京大防災研究所年報, 第14号A, pp.481-500	石崎潑雄・川村純夫・室田達郎・木本英爾・田平 誠
1971	道路トンネル内の拡散について	京大防災研究所年報, 第14号A, pp.501-504	
1971	1970年9月15日彦根付近を襲った強風とそれによる被害について	京大防災研究所年報, 第14号A, pp.469-480	石崎潑雄・室田達郎・成 仁煥・吉川裕三
1971	Disaster Caused by Severe Local Storms in Japan	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.20, Part 4, pp.227-243	H.Ishizaki・T.Murota・Y.Yoshikawa・W.Sung
1973	Natural Ventilation of the Mountain Road Tunnel	A Symposium Sponsored and Organized by BHR4 Fluid Engineering, pp.D1-1-D1-12	Y.Hiramatsu・F.Honda
1973	立山周辺山岳地域の風の特性について	京大防災研究所年報, 第16号B, pp.267-272	石崎潑雄・本田文一・藤谷徳之助
1976	船体上の風の流れ	日本航海学会論文集, 56号, pp.1-7	石田廣史
1978	潮岬における風力エネルギーについて	京大防災研究所年報, 第21号B-1, pp.375-382	石崎潑雄・林 泰一
1978	昭和53年2月28日に東京地方を襲った竜巻について	第5回構造物の耐風性に関するシンポジウム論文集, pp.37-44	文字信貴・岩谷祥美・西岡淳一
1979	1978年9月16日に潮岬を襲った竜巻について	京大防災研究所年報, 第22号B-1, pp.371-384	石崎潑雄・林 泰一
1979	A Tatumaki in Tokyo on February 28th	Preprints of 5th Int. Conf. on Wind Engineering, pp. II-2-1-II-2-10	H.Ishizaki・Y.Taniike
1979	日本における風のエネルギーの評価	天気, Vol.26, No.10, pp.583-594	林 泰一
1979	1978年2月28日に東京地方を襲った竜巻について	京大防災研究所年報, 第22号B-1, pp.385-406	文字信貴・岩谷祥美・西岡淳一
1980	1979年に発生した台風に伴う竜巻	京大防災研究所年報, 第23号B-1, pp.289-301	文字信貴・石川裕彦

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1980	突風前線の性質について	第6回風工学シンポジウム論文集, pp.39-44	石崎潑雄・林 泰一
1981	負渦度領域を持つ軸対称渦の安定性	京大防災研究所年報, 第24号 B-1, pp.345-356	石川裕彦
1981	突風前線の観測について (その2)	京大防災研究所年報, 第24号 B-1, pp.319-329	石崎潑雄・林 泰一
1982	突風前線の観測について (その3)	京大防災研究所年報, 第25号 B-1, pp.247-253	石崎潑雄・林 泰一
1982	接地境界層中の突風前線について	第7回風工学シンポジウム論文集, pp.39-44	石崎潑雄・林 泰一
1982	大火災に伴う旋風について	京大防災研究所年報, 第25号 B-1, pp.255-271	文字信貴
1982	積雲の雲底下における大気の性状について	京大防災研究所年報, 第25号 B-1, pp.297-306	内田 諭
1983	An Experiment on the Rotation Source of the Small Scale Atmospheric Vortices	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.61, pp.91-99	N.Monji
1983	竜巻実験装置を用いた1セル及び2セル渦の研究	京大防災研究所年報, 第26号 B-1, pp.393-401	文字信貴
1984	1983年4月27日岩手県久慈市の林野火災拡大化に及ぼした風と地形の効果について	京大防災研究所年報, 第27号 B-1, pp.313-324	文字信貴
1985	竜巻渦など小規模渦中に発生する副次渦の実験	京大防災研究所年報, 第28号 B-1, pp.427-436	文字信貴
1987	On the Multiple Structure of Atmospheric Vortices	Jour. Geophys. Res., Vol.92, No.D12, pp.14827-14831	N.Monji・H.Ishikawa
1988	大気中の小規模な渦に及ぼす地表面粗度の影響に関する実験	京大防災研究所年報, 第31号 B-1, pp.177-182	文字信貴・王 允寛
1988	GMS赤外・可視資料による降雨の推定について	京大防災研究所年報, 第31号 B-1, pp.201-217	謝 平平
1989	海上風速と気温の中規模変動と大気状態の特性	海と空, 第64巻, 第4号, pp.233-246	石田廣史・W.V.Burt
1989	雨水の酸性度を決定する要素について	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.311-319	平木隆年・玉置元則・堀口光章
1989	GMS赤外データを用いた雲の解析について	京大防災研究所年報, 第32号 B-1, pp.349-359	謝 平平
1990	ソーダによる境界層内の Low Level Jet の観測	京大防災研究所年報, 第33号 B-1, pp.259-274	竹久正人
1990	GMS赤外データによる夜間雲量及び雲形の推定について	京大防災研究所年報, 第33号 B-1, pp.275-284	謝 平平
1991	A Low Level Jet Observed by a Doppler Sodar during the International Sodar Intercomparison Experiment (ISIE)	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.69, pp.171-177	T.Kataoka・M.Takehisa・Y.Ito

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1991	GMS赤外画像データによる降水推定法について	京大防災研究所年報, 第34号 B-1, pp.1-11	謝 平平
1992	1991年6月27日岡山市東部で発生した陣風災害について	京大防災研究所年報, 第35号 B-1, pp.161-174	林 泰一
1992	1991年1月奄美大島における下層雲と境界層の観測結果について	京大防災研究所年報, 第35号 B-1, pp.175-181	堀口光章・永井晴康
1992	1989年6月の日本周辺の梅雨の雨量分布について	京大防災研究所年報, 第35号 B-1, pp.215-227	謝 平平
1993	Lidar Observation of the Asian Dust (Kosa) over the Gobi Desert during the Dust Season of 1991	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.634-641	K.Kai・S.Shimoda・M.Abo・Z.Shen
1993	Seasonal variation of the optical thickness over the Zhangye Station	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.654-662	K.Kai・Z.Huang・M.Shiobara・Y.Zaizen・
1993	Modification of Asian Dust-storm Particles during the Transport from China to Japan -With Regard to the Internal Mixture of Mineral and Sea-salt Particles	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.670-675	K.Okada・S.Takahashi・M.Ikegami・X.Fan・G.Shi・N.Niimura・K.Kai・K.Arao・Y.Iwasaka
1994	1993年5月5日中国北西部で発生した砂嵐について	京大防災研究所年報, 第37号 B-1, pp.9-21	竹見哲也・板野稔久
1995	The Scaling-up of Processes in the Heterogeneous Landscape of HEIFE with the Aid of Satellite Remote Sensing	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.73, pp.1235-1244	J.Wang・Y.Ma・M.Menenti・W.Bastiaanssen
1995	Two Severe Local Storms as Observed in the Arid Area of Northwest China	Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol.73, pp.1269-1284	T.Hayashi・T.Takemi・Y.Hu・J.Wang・M.Chen
1995	中国北西部砂漠における降雨特性	京大防災研究所年報, 第38号 B-1, pp.129-141	板野稔久・竹見哲也
1995	1994年2月22日の低気圧による北日本の強風災害について	京都大学防災研究所年報, 第38号 B-1, pp.143-161	桂 順治・松本 勝・石川裕彦・林 泰一・杉政和光
1996	Mesoscale Numerical Study over the HEIFE Area Part 1: Three Dimensional Wind Field	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.45, Parts 2,3, pp.39-60	Z.Chen・J.Chen・H.Ishikawa
1996	軸対称渦に関する数値実験	京大防災研究所年報, 第39号 B-1, pp.119-128	石川裕彦・上原真一
1996	中国北西部河西回廊の降雨について	京大防災研究所年報, 第39号 B-1, pp.143-150	板野稔久

著 書

出版年	書 名	出 版 社	共 著 者
1964	防災ハンドブック 3編2章 地表付近の風	技報堂	防災ハンドブック編集委員会編
1975	海洋学講座 第3巻5章 大気・海洋相互作用の観測	東大出版会	小倉義光編
1986	都市の変容と自然災害 第2章3 都市と気象災害	日本学術振興会	石原安雄・大沢 胖・伯野元彦編
1988	気象のはなし I, II	技報堂	編著
1990	橋と風 第3章 構造物に作用する風	コスミック	橋と風編集グループ編
1992	極地気象のはなし 2) 乾熱の極, 砂漠からの蒸発	技報堂	井上治郎編著
1993	微細気象学 (J.C.Kaimal著)	技報堂	山田道夫共訳

解 説

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者	
1980	台風とそれに伴う強風について	京大防災研究所年報, 第23号A, pp.17-42	文字信貴・佐橋 謙・塚本 修・米谷俊彦・松井哲司・大滝英治	
1986	都市化と風災害	天気, Vol.33, No.3, pp.94-99		
1986	大気中の炭酸ガス濃度変動の国際比較観測	天気, Vol.33, No.12, pp.625-631		
1988	大気-地表相互作用に関する日中共同研究 (HEIFE)	天気, Vol.35, No.8, pp.501-505		
1990	風を測る-計測器・計測システム-	日本風工学会誌, 第42号, pp.49-57		
1990	森林の伐採による気候変化	土木学会誌, 4月号別冊増刊, pp.39-42		
1990	大気境界層における気象要素の遠隔測定システムの開発	可視化情報, Vol.10, No.37, pp.24-27		
1990	集中豪雨の気象学	京大防災研究所公開講座 都市の防災第1回		
1991	台風の発生と運動	京大防災研究所公開講座 都市の防災第2回		
1993	日本人の生活と台風	京大防災研究所公開講座 生活と防災		
1993	Outline of HEIFE Field Observation	Proc. Int. Symp. HEIFE, pp.22-29		J.Wang・Y.Hu・K.Sahashi
1995	黒河流域における地空相互作用に関する日中	京大防災研究所年報, 第38号A,		